

ロケに関わった地元の方にも

お話を聞きました

映画を  
撮って町を  
元気に!!

地域をあげて大歓迎！  
これからもこの町に人が  
来てくれるとええな。

磯田 守 (いそだまもる) さん

隣の家がロケ地となったため、映画の出演者やスタッフの皆さんの休憩所として自宅を提供したんですわ。撮影は深夜に及ぶこともあったんですが、皆さんが頑張ってみえたので、いつの間にか私も映画関係者になったような気分で、起きて見守っていたんです。

一番大変やったのは20年間耕作していない田んぼを蘇らせることでしたが、スタッフの熱意にほだされて、制作期間中は自分の仕事そっちのけで、手伝っていました。関わった人の思いが詰まったこの映画をきっかけに、多くの人がこの町を訪れてくれたらいいですな。



磯田さんの自宅のふすまには、映画出演者やスタッフのサインがぎっしり！

映画の公開をきっかけに、  
いろんなことが  
この町に芽生えてほしい。

眞伏 敏男 (まぶしとしお) さん

映画の制作中に、私が経営する飲食店にスタッフの皆さんが来てくれたんです。そこから交流が生まれ、エキストラとして映画撮影にも参加しました。

私は、単に人が増えるのではなく、何か行動を起こす人が増えることが活性化だと思ってるんです。これから映画のロケで使われたセットなどを使って、皆さんが楽しめるようなことをして、美杉を盛り上げていこうと考えています。

問い合わせ先

戦略企画部 広聴広報課

☎ 059・224・2788

☎ 059・224・2032



首都圏営業拠点「三重テラス (東京都中央区日本橋)」にて

地域の協力で素晴らしい映画に！

「地元の皆さんには、撮影の際、お勧めの撮影場所を教えてください、炊き出しのボランティアに参加してもらったり、いろいろな

画では林業という仕事そのものの厳しさもすっかり描かれています。三重県の県土の3分の2を占める森林。今、林業の低迷や担い手の高齢化など、森林をとりまく環境は大変厳しい状況にあります。県民の皆さんに、この映画を通して、林業や森林づくりにも関心を持っていただければと期待しています。

形で協力していただいたんですよ」と前葉市長に伺いました。出演者やスタッフの皆さんはもちろん、地元の方々の素晴らしい協力体制で最高の作品が出来上がったと思います。映画を通して、県民の皆さんには自分たちが住む地域の魅力の再発見を、県外の皆さんには三重県にはこんなに良い場所があるんだという新発見をしてもらいたいと思います。この映画は三重県の財産です。



映画の公開を楽しみにしています

前葉津市長

プロフィール

矢口 史靖 (やくちしのぶ) さん

神奈川県出身。映画監督。1993年「裸足のピクニック」で劇場監督デビュー。2001年「ウォーターボーイズ」が大ヒット。2004年「スウィングガールズ」、2008年「ハッピーフライト」、2012年「ロボジー」と、数々のヒット作を世に送り出している。

三浦 しをん (みうらしをん) さん

東京都出身。作家。2000年、書き下ろし長編小説「格闘する者に〇」でデビュー。2006年「まほろ駅前多田便利軒」で直木賞を受賞。2012年には、「舟を編む」で本屋大賞を受賞。「神去なあなあ日常」の続編に「神去なあなあ夜話」がある。

これからロケ地マップ作りなど、いろいろな形でPRを行い、三重県がさらに活気つくようしっかりと応援していきます。

(取材 知事 鈴木英敬)